

トウキ、ミシマサイコ、カンゾウ、オタネニンジン、シャクヤク 需要高まる薬用作物の省力安定生産技術



イメージ

国内で需要が高まる薬用作物（トウキ、ミシマサイコ、カンゾウ、オタネニンジン、シャクヤク）の生産拡大に向けて、雑草対策や収穫機、栽培判断技術など、**省力的かつ安定的に生産する技術を開発**しました。

薬用作物を既存の地域の農業体系に導入し、収益を確保できる経営モデルを盛り込んだ手引きを活用して普及に取り組んでいます。中山間地域などで導入され、**新たな産地の誕生が期待**されます。

薬用作物栽培を
最大8割省力化
新たな産地形成、
生薬の安定共有に
期待



普及に向けて薬用作物の栽培方法と開発技術を解説した冊子を配布



中山間地におけるミシマサイコの栽培風景

研究代表機関

プロジェクト名

研究期間

農研機構

薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発

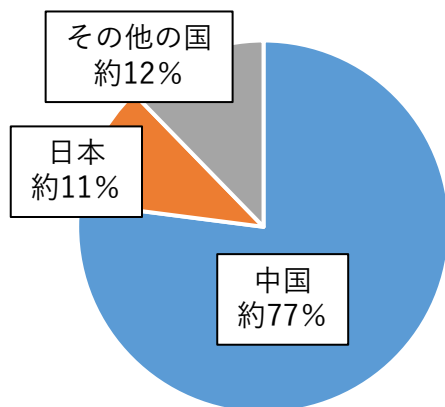
平成28年度～
令和2年度

〔 共同研究機関：医療基盤・健康・栄養研究所、山形県、静岡県、三重県、奈良県、徳島県、佐賀県、宮崎県、県立広島大学、千葉大学、福島県立医科大学、十勝農業協同組合連合会、（株）夕張ツムラ 等 〕

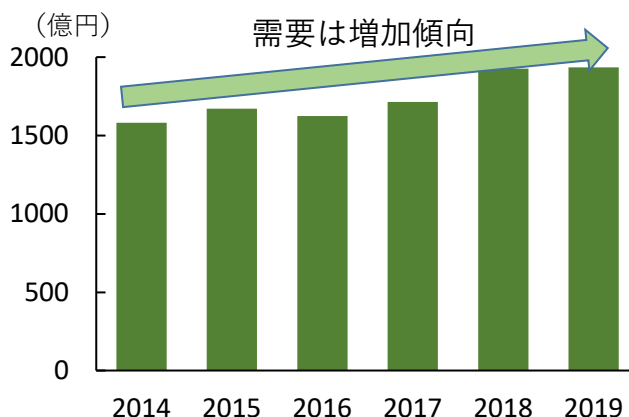
研究背景

漢方製剤等の原料となる生薬は国内需要の約9割を輸入に頼っていますが、輸入元の海外において環境保全等の観点から採取や輸出を規制する動きがあり、安定的な調達が難しくなりつつあります。

国内の中山間地域では、地域の活性化につながる作物として薬用作物栽培への関心が高まっていますが、一方で、薬用作物は収穫までに複数年かかるものが多く、使用できる農薬や機械が少ないことから、省力的な管理技術や、多様な気象・土壌条件に適した安定生産の方法が求められています。



漢方製剤等の原料使用量および生産国（2016年度）



漢方製剤等の国内生産金額（億円）の推移
（一般用および医療用医薬品）

主要な成果

- 1 カンゾウ収穫機やオタネニンジンの早期育苗など5品目で省力管理技術を開発 → 除草や収穫など**作業時間を最大8割削減**、オタネニンジンの**育苗期間を半減**（2年→1年）
- 2 トウキの収穫適期推定プログラムや5品目の病害関連研究など安定生産技術を開発 → 省力化しても**慣行栽培と同等以上の収量**見込み
- 3 栽培暦や既存の生産体系へ薬用作物の導入を図る経営モデル、技術マニュアルを作成 → 中山間地での**新たに産地を形成**し、地域の活性化、原料生薬の安定供給に期待



カンゾウ収穫機による収穫作業



薬用シャクヤク品種「べにしずか」